

岡山学院大学・岡山短期大学  
令和元年度 FD・SD ワークショップ実施報告



日 時： 令和元年 12 月 26 日（木） 9：10～15：00  
 場 所： 岡山学院大学・岡山短期大学 情報処理教育センター D302  
 評 価 員： 九州情報大学・山口短期大学 麻生隆史 理事長・学長  
 オブザーバー 九州情報大学 麻生尚寛 副理事長

時 間	内 容
9：10～10：10	岡山短期大学幼児教育学科 報告 1. シャトルカードの活用法 2. 授業アンケート（自由記述への対応、改善案等） 3. 授業参観について 4. 外部評価（地域・高大接続連携校） 5. 汎用的学習成果のエビデンス 6. 学習成果に関するアンケート（平成 30 年と令和元年の比較） （15 分の質疑応答含む）（質疑応答後 5 分休憩）
10：20～11：20	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 報告 1. シャトルカードの活用法について 2. 授業アンケートの活用（自由記述への対応、改善案等）について 3. 栄養長寿教室等活動の取り組みと見直しについて 4. 就職先訪問の改善への取り組み 5. 外部評価の実施（地域の評価者による）（15 分の質疑応答含む） （質疑応答後 5 分休憩）
11：30～12：30	岡山学院大学・岡山短期大学事務部 報告 令和元年度も議長（学長）のもと、計 6 回 SD 会議を実施した。第 1・3 回はオープンキャンパスについて行った。第 1・2・4 回は、今年度岡山短期大学で認証評価を受験することもあり、多くは短期大学認証評価に関する内容となった。第 5・6 回については、今年度のワークショップに向けて、各部署の業務内容における前年度ワークショップの発表内容に続き、今年度実施状況、自己評価や次年度に向けた改善案等（PDCA）について行った。今年度も各学科の教員が数名参加のもと実施した。 第 1・2 回目は、短期大学認証評価の自己点検・評価報告書の提出に向けて

	<p>役割・スケジュールの確認、内容の校正及び意見の交換を行った。第 1 回目では、上記の他にオープンキャンパスについて各役割・新たな試みの確認を行った。</p> <p>第 3 回目では、実施したオープンキャンパスのアンケートを昨年度と比較し、振り返りや改善点の検証等の意見交換を実施した後、職員使用 PC の Windows10 へのアップデート方法について、説明を受けた。</p> <p>第 4 回目では、短期大学認証評価の訪問調査に向けて、確認事項や評価のポイントについて、学長より説明を受け、当日のスケジュール確認を行った。</p> <p>第 5・6 回目では、各部署の昨年度取組における課題・改善案の今年度実施状況、自己評価や次年度に向けた改善案等（PDCA）について、部署ごとに各自発表を行い、全員で分析し、修正点を確認後、ワークショップの発表に向けて発表の形式の確認を行った。</p> <p>今年度の事務職員は、昨年度自部署での観点を記入し、課題と評価を行い、自己点検評価した内容について引き続き今年度の実施状況、自己評価や次年度に向けた改善案等について報告した。</p> <p>（15 分の質疑応答含む）</p>
12:30~13:30	昼休憩
13:30~14:30	<p>講演：中教審議題「地域における高等教育機関と大学間の連携の在り方について」</p> <p>ガバナンス連携による地方大学の機能強化～ 大学等連携推進法人を活用した国公立大学の連携 ～</p> <p>めぶく。プラットフォーム前橋 地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進協議会</p> <p>大学等連携推進法人(仮称)のイメージ</p> <p>講師：九州情報大学・山口短期大学 理事長・学長 麻生隆史 先生</p> <p>これからの大学連携について 60 分間の詳しい説明を得た。</p>
14:30~14:45	<p>講演に対する質疑応答</p> <p>大学等連携推進法人はハワイ大学機構のようなイメージかとの質問に対して「まだ全容は示されていない。これから注視する必要がある。」などの応答があった。</p>
14:45~15:00	<p>総括（学長 原田博史）</p> <p>令和元年度の FD・SD ワークショップは、大学・短期大学・事務部ともに中身の濃い報告であった。</p> <p>従って新たな課題の発見について改善を速やかに図るよう全力を挙げてほしい。</p> <p>麻生先生の講演により、高等教育のグランドデザイン答申の具現化の進捗状況も分かってきたので、本学も Society5.0 に対応した人材養成を図る教育課程を構築して行きたいと述べ、改めて感謝の意を表した。</p>

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 FD ワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学

氏 名 麻生隆史

令和元年 12 月 26 日の FD ワークショップは岡山学院大学岡山短期大学 FD（ファカルティ・ディベロプメント）委員会規程に従って十分な内容であったかまた三つの方針・学習成果・点検・評価の方法などの観点から率直な評価をお願いします。

総評

「平成 25 年から実施しているシャトルカードの活用は、やや形骸化しているように感じるが、今後の改良で示された内容を生かされることが望まれる。」ことを前回指摘したが、本年度においては、その内容を改善し今後の課題も明確化されてきた。特に授業評価アンケートにこれを取り入れ、評価の高い教員の事例を活用する提案は高く評価できるので、これからの取り組みに期待したい。

授業評価アンケートについては、その課題であるプレゼンテーションの見直しに着手しており、特に寸劇における今後の課題である学生の負担も考慮されている方針は継続的に検討されることを期待する。

栄養長寿教室活動の取り組みは、長年実施し成果を上げている。ループリックを活用することによる取り組みは評価できる。今後の検証や見直しにより、有効な活用への取り組みになることを期待する。

就職先訪問の改善は、現在の課題を認識しており、卒業生の学習成果の獲得状況をより可視化できる仕組みの構築を推進されることを期待する。

外部評価については高大連携の高等学校も含め実施されており、より広範囲になってきた。そこで得られた知見を活用され、今後学科全体の教育活動の充実や教育の質保証に繋がることを期待する。

岡山短期大学幼児教育学科 FD ワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学  
氏 名 麻生隆史

令和元年 12 月 26 日の FD ワークショップは岡山学院大学岡山短期大学 FD（ファカルティ・ディベロプメント）委員会規程に従って十分な内容であったかまた三つの方針・学習成果・点検・評価の方法などの観点から率直な評価をお願いします。

総評

少子化や都市部への人口集中により、地方の短期大学の幼児教育学系の定員確保が厳しい状況であることを踏まえ、いかに魅力ある幼児教育学系短期大学を目指すのかが課題である。本年度の大きな課題は定員確保であり、それを学科内全員で認識していくことが重要である。今後の回復を目指すための教育の質保証と学生の学習成果の獲得を急務としている。

チャトルカードの活用は有効で、その内容が良く検討されている。これらの方向性が学科全体で共有され深く検討・精査することが重要である。

授業アンケートにおける記述に関する検証がなされている。今後自由記述においては学生がより内容の深い意見を抽出しやすい手法を検討され、それを授業にフィードバックできるシステム構築が望まれる。

授業参観は PDCA サイクルにより、より深く検証されている。評価段階や評価項目の精査や検証を丁寧に分析することにより、さらなる教育の質の向上が目指せると考える。

外部評価は地域や高大接続の観点を取り入れる取り組みが評価できる。3つの方針との関連性を可視化できる評価になればより良い取り組みになるであろう。

外部評価は地域・高大接続連携校での取り組みであるが、具体的な検証を行っている。そこで得られた課題についても的確に分析されている。今後の改善計画においては、現場に即応できる保育者の育成という目標を達成されるために調査項目や調査対象を精査しフィードバックすることにより、教育目標の明確化に繋がっていくであろう。

汎用的学習成果は、そのエビデンスを明確化する方策に取り組んでいる。大変難しい課題であろうが、その取り組み、検証の内容は十分評価できる。

学習成果に関するアンケートは、前年度と当該年度の比較によって得られた知見を分析し、より深い取り組みになってきている。今後より奥深い検証によって得られた内容が学科全体の学習成果の獲得向上に繋がることを期待する。

岡山学院大学・岡山短期大学事務部 SD ワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学  
氏 名 麻生隆史

令和元年 12 月 26 日の SD ワークショップは岡山学院大学岡山短期大学 SD（スタッフ・ディベロプメント）委員会規程に従って十分な内容であったか一般的な SD として十分な内容であったか率直な評価をお願いします。

総評

各担当者が、それぞれの部署において課題を見出し、改善計画や行動計画を深く認識していることは評価できる。本ワークショップを通じてその内容を全学的に共有し、課題解決の糸口になることを期待する。事務部で示された課題は直接教育に携わる全教員がその内容を理解し、全学的な教育の質向上に繋がることが重要である。

特に建学の精神・大学の教育目的・各学科の教育目的・3つのポリシーが明確で、課題はあってもそれらの連携や関連性が学生の学習成果の獲得に繋がるように事務部では努力されている。

特に、学長のもと実施されている年6回にも及びSD会議は有効に機能している。特に今年度は短期大学において認証評価の受審があったため、現在までに実施してきたSD活動の成果が評価結果に直接繋がることを十分理解された内容である。特に公開講座・オープンキャンパス・SNSの利用・高等学校関係者からの意見聴取・各種アンケート・食堂での取り組み・防災を含む危機管理・図書館の活用・奨学金や退学者に関する情報共有・入試関連事務・機器備品管理・学務業務の効率化等の取り組みに関して、その取り組みの内容や質の向上がみられる。これらを継続的に実施されることを期待する。